

**4**

Rd.

**JUL 2011**

# **RACING PRESS**

*apan*

**2011 AUTOBACS SUPER GT  
ROUND4 SUGO 250Km RACE**





# 2011 SUPER GT ROUND 4 SUGO

復興支援大会として運営しているスーパーGTは被災地の仙台での開催となった。今大会にはGTAと菅生は500名の被災者を招待した。スタートグリッドには「がんばろう!日本」の横断幕を持った子供達の大きな声援が響きわたった。



Text  
島村元子  
Editor  
吉川絹恵

Photo  
鉄谷康博  
中村佳史  
原 勝弘

2011 AUTOBACS SUPER  
GT ROUND 4 SUGO 250Km RACE  
7/30-31



# GT-R今季3勝目! S-Roadがポール・トゥ・ウィン



## [GT500 決勝結果]

優勝	46	S Road MOLA GT-R	柳田真孝/ロニー・クインタレッリ	68周
2位	39	DENSO SARD SC430	石浦宏明/井口卓人	68周
3位	32	EPSON HSV-010	道上 龍/中山友貴	68周



決勝の朝は雨模様だったが午後2時にレースがスタートすると終始曇天模様。ポールスタートの46号車は速くもライバルを圧倒。アンチ・ブリヂストン勢もこの流れに乗って、周回を重ねていく。逆にBS勢はその後方で激しい順位争い。足元が定まらない各車が、アップダウンのある抜きどころ少ないSUGOでライバルを攻略しようと、悪戦苦闘を続けた。

トップ46号車の勢いはルーティンワーク後も変わらず。盤石の走りでレースを牽引。文句ナシの勝利は、チーム初優勝でもあった。2位は39号車、そして3位に予選4番手スタートのNo.32 EPSON HSV-010(道上龍/中山友貴組)が続き、チームは久々の表彰台となった。

# GT500





# ミシュランがワン・ツーフィニッシュ! ダンロップも大健闘の表彰台をゲット!



2nd



3rd





# Accident & Battle

決勝レースの18周目第1コーナーでオーバーランをしてコースに戻ろうとした1号車ウイダと12号車カルソニックが接触。2台が緊急ピットインして大きく後退、結果ノーポイントに終わり手痛い結果となった。



## Battle

好調ミシュラン勢を追う32号車ダンロップのエプソンHS-Vとヨコハマを装着する24号車KONDO GT-Rの激しい3位争い。結果ミシュラン、ダンロップ、ヨコハマが上位4位までを独占。



## Accident

GT300クラスの360号車は、フリー走行でマシンをガードレールにヒットし予選は出走せず、残念な結果に終わった。



GT300



# レクサスLS350がチーム初優勝!



GT300は雨の予選を制したのは43号車ARTA、2番手に11号車JIMGAINER、3番手に14号車SG CHANNGIと続いた。決勝はポールポジションから43号車が飛び出し順当にトップをキープ。予選3番手から追いかける14号車折目は3周目ぐらいからトップ背後にビタリとつけ、激しいレースを展開。そして9周目にトップに浮上。その後A・インペラトリーにバトンを渡し快調なペースで走りきり見事に優勝を手にした。



[GT300 決勝結果]

優勝	14	SG CHANNGI IS350	折目 遼/アレキサンドレ・インペラトリー	63周
2位	74	COROLLA Axio aprGT	新田守男/国本雄貴	63周
3位	43	ARTA Garaiya	高木真一/松浦孝亮	63周

## GT300



# THE FACE CLOSE-UP

Nobuteru  
**TANIGUCHI**  
谷口信輝

Text by M.Shimamura

Photo: Yasuhiro Tetsutani

## ストリートからの成り上がり人生 熱い闘志で絶大な人気を誇るオトコ!

精悍なマスクに軽快なトーク、TVに雑誌にと、モータースポーツ関係のメディアで大活躍する谷口信輝。今シーズンのSUPER GTにおいては、長らく共に戦ってきた雨宮レーシングが参戦を休止したことから、チームを移籍。GSR&Stodie with TeamUKYOから、No.4 初音ミク グッドスマイル BMWで出走している。

「去年まではRX-7というマニア向けのクルマで参戦し、ファンもレースに詳しい人が多かったけれど、今年はまったくカラーが異なったんで、最初は戸惑ったよ」と谷口がいうのは、チームのキャラクターである“初音ミク”絡みのファンのこと。モータースポーツとは無縁だったともいえる、いわゆる“アキバ系オタク”がチームにおける縁の下の力持ちであり、サーキットで彼らファンが集うのは、ある意味「オフミーティング」でもある。これまでと180度異なるファンとの交流を谷口なりに楽しみながら、ベテランドライバーとしてチームを引っ張っている。

戦闘マシン、BMW Z4 GT3はチームが今年初投入したもののだが、開幕戦ではクルマのポテンシャルを存分に引き出せず、スタッフともども苦戦。そこで谷口は持ちうるネットワークを最大限に活かし、第3戦セパンにおいて協力的な助っ人（エンジンエンジニア）を手配。瞬間にスピードと強さを見つけたBMW Z4 GT3を武器に、予選でポールポジションを獲得!

眠れる獅子だったクルマを見事に戦闘マシンへと変身させ、自らも申し分のない走りでもってトップをキープ。チームにとって初となる勝利をプレゼントしてみた。

小さいときはMX自転車の競技もしていたという谷口。カートからフォーミュラへとステップアップし...という、いわゆるモータースポーツにおけるエリートコースを歩まず、街中などのドリフト族からサーキットデビューを果たした“異端児”でもある。だからこそ、負けん気は人一倍、営業トークもお手のもの。苦勞人なのだ。一方で、ファンサービスにも気を配り、お茶目なところも惜しみなく見せてくれる。やさしくておもしろく、そして強気なアニキは、これからも、サーキットのコース上で、そしてパドックで、ファンを大いに楽しませてくれる存在であり続ける。

[ドライバープロフィール]

1971年5月18日、広島市生まれ。走り屋を経てドリフト選手権などで脚光を浴びるようになる。また、チューニングカー雑誌などでドラテクを披露、人気を博した。D1参戦と並行し、2002年にはスーパー耐久にもデビュー。N+クラスでシリーズチャンピオンを獲得し、04年にはSUPER GTの前身である全日本GT選手権にステップアップ。今季はS-GTとスーパー耐久シリーズに参戦中。

